

向学館通信

2007・8・28

楽しい夏休みが終わりました。

夏休みが終わるとすぐにテストがある学校もあります。気持ちを切り替えて学習に励みましょう。来春受験する人はいよいよ本番。

長い夏休み、有意義に時間をすごしましたか。秋は文化祭、体育祭など、多方面で活躍を！

高校の「合格者水増し」は教育界の「腐敗」

この7、8月に「合格者の水増し」問題が新聞などで大きく取り上げられ、教育界の欺瞞ぶりが暴露されました。中には、一人で「関関同立」の各学部・学科を73も合格し、それが「合格者数」としてそのまま加算されていた、という衝撃的な話もありました。この学校では、上記4私大への合格者数を144人と発表していたが、水増分を差し引いた「合格者実数」は33人しかいなかったことも報じられました。この報道の後、新聞各社はそれぞれの自社調査結果などを報じました。

これらの報道をまとめますと、次のようになります。

①成績の優秀な生徒（きわめて少数）に多くの有名校を受験させ、その数を「合格者数」として発表していた。②そのような特別な生徒に学校は受験料を全額負担していた。また、特別な「奨励金」のようなものを生徒にわたすケースも見られた。③生徒獲得の手段として、この「水増し」が多く和学校で行われており、全国的に広がっている。・・・といった内容でした。

これらの行為は、一種の「悪徳商法」であって、豚肉や鶏肉を混ぜて牛肉と称して売ると、本質的にはかわりがないわけです。表示を偽ることで売り上げをのばすという意味でも、これらの悪徳商法と同じです。ところが、ひき肉の中身をごまかした北海道のミートホープ社などには、テレビなどが連日激しい批判を展開していたのに比べると、メディアの批判のトーンもそれほど激しくなかったのではないかと思います。意外でした。

高校の合格者水増しは、学校が平気で嘘をつく存在であること、嘘の宣伝に子どもたちを引き入れ、お金を餌にして子どもや親をいわば「悪の道ずれ」にしていること、そして、子どもたちに対して「悪に対する不感症」を植えつける働きをしていること、などなど、大きな問題だと考えます。少年・少女を心身ともに健全に育てるのが、学校の任務ですが、悪徳を教え実践させているという意味では、一般の悪徳商法よりももっと厳しい態度で臨むべきことではないかと考えます。

塾では「水増し」が常識です

合格者を実際の何倍にも多く見せ、あたかもそれが「実際の数字」のように誇示していることにおいては、学習塾が「先輩格」ではないのでしょうか。私どもも学習塾の一員として、いつも恥ずかしいことと思ってきましたが、数字を誇示している塾の中には、「水増し」は当然のこととしている塾が多いのが実態です。優秀な生徒にたくさんの学校を受験させ、一人で何校も合格するようにして、それを全部カウントしています。中学受験でも、高校受験でも、実態とかけ離れた「合格者数」がチラシに誇示されています。

向学館では、嘘の宣伝をしたくないという考えでやってきました。合格者数という、ごまかす余地のある数字ではなく、人に聞かれたときは「入学者数」をお知らせすることにしていました。一人の人が何校受験しようと、最終的に入学した学校を「合格」としてきました。他塾とは、数字の意味が異なっているのです。当然、合格者数はきわめて少ないように見えます。しかし、これが事実なのですから、今後もこのやり方を続けます。

夏休みでしっかり数学・英語の基礎をやりました

中2、中3の生徒には、数学、英語の基礎からの復習をやらしてもらいました。中1レベルの基本を忘れていたり、はじめから身に付いていなかったりという人もかなりいました。しかし、中1レベルだけでもしっかりとやり遂げた人は、自信をつけたことと思います。

数学も英語も一番基礎のところが曖昧ですと、その先の蓄積ができません。この意味で、夏休みに基礎固めができた人は、次の成長への土台が築けたので、よかったと思います。